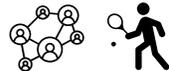


体育・保健体育等を 学ぶ意義・価値等について

第1回・第2回WGにおける教科等に関する主な問題意識等

社会の状況に関すること



- 社会のデジタル化やデジタル技術の発達による恩恵を受ける一方で、運動・生活習慣の変化や、健康に関する情報との付き合い方については、大人も子供も課題があるのではないか。
- オリンピック・パラリンピック東京大会の開催、スポーツ基本法改正といった動きの中で、子供たちを含む国民の運動・スポーツに関する「する、見る、支える、知る」等の向き合い方の変化がある。
- 減少する事故等がある一方で現代的な課題は多様化・複雑化している。

児童生徒に関すること



- コミュニケーションをとることへの難しさや心の不安定さを示す子供が増加傾向。
- 運動習慣の二極化傾向により、体幹の弱さや持続力の低下、運動経験の少ない子供が増加していると感じる。一方で、体育を楽しみにしている児童生徒は従前から変わらず多いと感じる。体を動かす時間は子供たちの学校における心身のリフレッシュという面においても重要な役割を果たしているのではないか。
- 子供たちが楽しくてやりたくなる体育の姿を改めて考え直すことが必要。
- 保健の学習について「大切だ」と回答する児童生徒の割合は高い。「好き」「楽しい」の回答が更に向上する授業改善等が必要。

教育課程・指導体制に関すること



- 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する指導と評価の考え方の浸透は進んでおり、授業改善が図られている。体育においては、「公正」「協力」「共生」等の「態度」に関する指導の充実も図られている。一方で「思考力、判断力、表現力等」に関する指導には課題もある。
- 個に応じた指導の難しさや、学びの成果の見取りについて課題がある。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する現場の理解を更に深めると同時に、子供たちの多様性についても一層理解を深める必要があるのではないか。
- デジタル技術の活用状況は現場によって差がある。運動・スポーツを「見える化」する技術や、プロスポーツ・医学の知見を取り入れた学習活動、保健等との連携も視野に入れたデータ利活用の推進は考えられないか。また、教科等横断的な視点や、部活動改革、安全に関する指導、その他地域との連携の視点含め、教育課程内外を通じた指導にも留意が必要ではないか。
- 外部講師の活用や外部機関との連携について、これまでの実践を踏まえ、更に多様な分野において推進することが考えられないか。
- 現場の教師が学習指導要領の趣旨やそれに基づく授業のイメージを適切に理解できることが重要であり、内容・伝え方の工夫が必要ではないか。
- 体育において、幼小接続について学習指導要領上の充実は図られているが、実際には「技能」の指導に陥りがちである等、道半ばではないか。また、種目選択において、必ずしも生徒が学びたい種目を選ぶことができなかったり、生涯にわたる豊かなスポーツライフに繋げる視点が十分ではないといった課題があるのではないか。何のために体育を学ぶのかという本質を踏まえ、学校段階によって求める技能のレベルも含めて、系統性の観点から検討が必要ではないか。
- 身体活動を通じた探究的な課題発見・解決型学習の一層の充実は考えられないか。一人一人の違いを大切にし、できるだけ自由に柔軟に運動・スポーツの多様な楽しみ方を味わうことのできる、誰も取り残さない体育を実現することが期待されるのではないか。
- 小学校において、体育が専門ではない教師や教職経験の浅い教師の指導力に課題が多い傾向がある。専科指導の充実も含めた対応は考えられないか。
- 運動学習の実施に当たっては、気象状況や施設・ICTの整備状況、外部人材の活用を含む人的体制も考慮する必要がある。
- 保健について、学習内容を日常生活や行動と関連付けて考え行動化したり、学んだことを表現・発信する姿の実現は道半ば。演習的な活動や、学習したことを広く発信し行動化する活動を更に取り入れる等の改善により、学習内容を自分ごと化したり、より良い環境づくりに参画できる学びへの転換が考えられないか。
- 安全について、例えば、各学校が学校安全計画に基づきより実効的な安全教育を実施するなど、組織的で着実な取組が必要ではないか。また、リスクの軽減を図るという考え方は、事故・外傷以外にも応用できる汎用性のある概念ではないか。
- 健康や安全を取り巻く課題は時代の変化とともに複雑化・多様化しているが、子供たちの学びを考える際には、現代的な課題への対応のみならず、不易な知識や対応力とは何かを改めて検討することも必要ではないか。未知の課題にも対応できる持続可能なコンピテンシーこそが真の力と言えるのではないか。

体育・保健体育等を学ぶ意義・価値について（第2回WGまでを踏まえて）

幸福な人生 よりよい社会

学ぶ過程の中で 見方・考え方

が徐々に資質・能力の育成を導くようになってともに、よりよい社会や幸福な人生に繋がっていきける



資質・能力 が身に付く

【知識及び技能に関する統合的な理解】
【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】

主体的・対話的で 深い学び

学校における学び

幸福な人生

- 生涯を通じた持続的な身体的・精神的・社会的に良い状態(ウェルビーイングな状態)の実現
- 運動・スポーツとの「する、みる、支える、集まる、つながる」等の関わり方を通じた、生涯にわたる楽しさや喜びの享受と自身の可能性を最大化する豊かなスポーツライフの実現
- 自他が安全で安心し、健康を保持増進する人生

よりよい社会

- 活力あふれる健康長寿社会・共生社会を実現し社会全体が持続的にウェルビーイングである状態
- 運動・スポーツを通じた地域・経済の活性化、人々の豊かな繋がり、新たな価値創造の実現
- 人々が健康・安全で、未知の課題にも柔軟かつ持続的に対応できる能力を備え、豊かな人生を送ることができる社会を含む環境づくりに、様々な担い手が主体的・協働的に参画する社会

学校で体育・保健体育等を学ぶ「本質的意義」

体育

- 身体を媒介に運動学習を行うという独特の学習方法を有し、「運動・スポーツの価値」を体感できるとともに、非認知能力を含む身体的・社会的・情意的スキルの育成に大きな力を発揮する強みがある。
- 全ての子供に運動・スポーツとの多様な関わりを保障するとともに、人と関わりながら自分らしく健康で生き生きとした人生を送る基盤づくりに貢献する、知・徳・体のバランスを支える不可欠な学び。
- デジタル技術が発展する中で、「身体を通じた人間性の醸成」「社会性の育成」「自己理解の深化」の場としての意義・価値を有する。
- 授業における多様性の包摂を通じて、自らの豊かなスポーツライフを舵取りする力と、スポーツを通じた誰も取り残さない共生社会の創り手の育成の両方を目指すことができる。

健康・安全

- 学齢期の健康や安全に関する課題の克服、リスクの軽減に資するとともに、生涯を通じて、身体的・精神的・社会的に良い状態で豊かな生活を送る上での基礎を培う役割がある。なお、学校は、発達段階を踏まえつつ、保健について計画的かつ系統的に学ぶことのできる最適な場所と考えられる。
- 知識の集積に止まらない健康に関する原則・概念を習得することにより、健康に関わる自己決定能力を育み、未知の健康課題にも対応できる柔軟で持続的なコンピテンシーを身に付けることができる。
- 学習内容を日常生活で行動化する実践力を身に付けることで、現代的課題を含めた様々な課題に対応することができるようになるとともに、保健・安全に関するより良い社会を含む環境の創造に主体的・協働的に参画できる力を育てることにつながる。

未来社会を生き抜く
「人間力」の育成に直結

